

# 令和元年度 第4回市民と市長の座談会

## 会 議 報 告

事務局 企画財政部広報秘書課広聴係

開催日時	令和元年7月13日（土）午後2時00分～4時00分
開催場所	婦人会館
参加者	男性 4名 女性 6名 計10名
会議次第	1 開 会 2 市長あいさつ（市政報告） 3 懇 談 フリーテーマ 4 閉 会
主な意見	<ul style="list-style-type: none"><li>・ココバスへのICカードの導入について</li><li>・浴恩館公園の野外調理場について</li><li>・浴恩館公園の駐車場について</li><li>・東八道路の自転車レーンについて</li><li>・第三小学校の運営について</li><li>・防犯カメラについて</li><li>・町会自治会の存続と活動について</li><li>・スカウト協議会の市行事への関わりについて</li><li>・電磁波の健康被害について</li><li>・香害について</li></ul>
懇談内容	別紙のとおり
その他	手話通訳者 2名 保育士 2名

## 令和元年度第4回 市民と市長の座談会

令和元年7月13日

### 1 開 会

#### ○司会者

皆様こんにちは。本日はご参加いただきまして、まことにありがとうございます。私は本日の司会進行を務めさせていただきます、広報秘書課長の天野と申します。どうぞよろしく願いいたします。

初めに、配付物の確認をさせていただきます。1点目が本日の次第、2点目がアンケート、3点目が今年度の施政方針。こちら今年の2月20日に表明したものでございますので、表紙のほうは平成31年度となっております。続いて、令和元年度小金井市予算の概要。シティプロモーション基本方針概要版。市報こがねい5月15日号の新庁舎の特集面。「障害のある人もない人も共に学び共に生きる社会を目指す小金井市条例」のパンフレット。こちらは概要版とあわせて配付しております。それから、小金井てくてくマップ。東京2020オリンピック自転車ロードレーステストマッチに関するチラシ。こちらは、交通規制のお知らせとあわせて配付をしております。最後が市制施行60周年記念のクリアファイルでございます。あらかじめ皆様にご用意したものは以上10点でございますが、このほか受付にいくつか参考資料を置かせていただいておりますので、ご自由にお持ちいただければと存じます。

開催に当たりまして、事務局よりご説明を申し上げます。この座談会は、平成28年度から開始したもので、毎年年に4回、市民の皆様と市長とのフリートークということで開催しております。本日は、今年度の第4回目の開催でございます。

本日の進め方でございますが、初めに市政報告ということで、重要課題の進捗状況につきまして、市長の西岡より簡単に報告させていただきます。その後、意見交換ということで皆様から自由にご発言いただき、それに対して市長がお答えするという形で進めさせていただきます。

懇談に入る前に、事務局より3点ほどご了承いただきたいと存じます。1点目は、懇談中は、議事録作成のため、録音をさせていただきますので、ご了承いただきたいと思っております。2点目といたしまして、懇談の様子を撮影した写真をホームページに掲載させていた

できます。ホームページの方の掲載、差し支えるという方がいらっしゃいましたら、挙手をお願いします。大丈夫でしょうか。最後3点目でございます。本日の終了時刻は午後4時までとなっております。会場を撤収する都合上、終了後につきましては速やかにご退場いただきますよう、ご協力をお願いいたします。

では、次第に従いまして、市長の西岡よりご挨拶と市政報告をさせていただきます。

## 2 市長あいさつ（市政報告）

### ○西岡市長

皆様こんにちは。ご紹介いただきました小金井市長の西岡真一郎でございます。

久しぶりに曇りの陽気でございます。長く続く梅雨の季節になりますが、今日は雨にふられないということでございますが、大変お忙しい中3連休の初日にもかかわらず、市民と市長の座談会にお越しをいただきまして、まことにありがとうございます。小金井市長の西岡真一郎でございます。

この市民と市長の座談会は、私の思いから、私が市長に就任してから、こういった機会をつくらせていただくことにしました。今回で通算13回目の開催となっております。毎回非常に活発なご質疑が。また、とても参考になるご提言やいろいろなご意見、ご質問をお寄せいただいております。冒頭は2時半ぐらいまで、私のほうからどうしても皆様方にお伝えをさせていただきたいことや令和元年度の特徴ある取り組みや予算などにつきまして、またこの時期タイムリーな話題としてお伝えできることなどをコンパクトにまとめてお伝えをさせていただきます。残りの時間は終了時刻まで意見交換のお時間とさせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

また、今日は、テーマはフリーテーマとなっておりますので、どのようなことでも、できれば国政のことよりは市政にかかわること。小金井市に関連するご意見、ご質問いただければ幸いですけれども、何か気になることがあれば、ぜひお聞かせいただきたいと思っております。

また、お手元にたくさんの資料がお配りをされておりますが、時々その資料にもお目通しをいただきながら、ぜひ私の話を聞いていただきたいというふうに思います。大丈夫ですか。

私が市長に就任をさせていただきましたのが、平成28年の12月18日。ここから、

小金井の市長に就任をさせていただきました。就任してから3年5カ月が経過したところでございまして、残りの任期もわずかとなっておりますから、1日1日を私も大切にしながら、精いっぱい全力で私に与えられた使命、果たさなければいけない課題の解決に向けて、全力で取り組んでおります。

まず1点目のご報告でございます。可燃ごみの処理についてご報告をいたします。小金井市の可燃ごみは広域支援と申しますが、多摩地域の各団体の施設で処理をしていただいております、ご支援いただいている各団体周辺にお住まいの皆様並びに関係者の皆様のご理解とご協力のおかげで、平成30年度につきましても滞りなく処理することができております。この広域支援は平成19年からずっと続いておりまして、今年で12年目の長きにわたります、多摩地域の方々に助けていただいております。

平成27年7月には、日野市、国分寺市及び小金井市の3市によりまして、可燃ごみの共同処理を行うため、浅川清流環境組合を設立いたしました。現在、日野市内におきまして、平成29年11月から新可燃ごみ処理施設の建築工事を開始しています。来年4月、令和2年4月から本格稼働をする予定でございます。しかし、ごみの処理の焼却施設というのは、突然、稼働、運転スタートできるものではなくて、事前のチェック、確認作業、各種審査、そしてならし運転が必要になります。来年の1月ぐらいから試験運転をスタートする予定です。その試験運転をするために、今年の12月の中旬から燃やすごみの全量搬入がスタートする予定です。

したがって、平成19年からずっと小金井市は独自の自前の焼却施設を持ってない、持てなかったという状況が続いてきたわけでありましてけれども、日野市様のご理解、そして、日野市、国分寺市、小金井市の3市でつくる浅川清流環境組合。特に日野市や国分寺市の皆様方のご理解もいただきながら、そして3多摩地域の方々にもご支援をいただきながら長い間広域支援いただいております。そして、施設の建設を目指していますが、今年の12月で広域支援がいよいよ終了する予定でして、令和元年度はその最終年度ということになります。関係者の方々に本当に深く感謝を申し上げます。

そして、引き続き、新しい可燃ごみ処理施設が誕生しても、これまで続けてまいりましたごみの分別のルールは一切変わりません。さらなる減量を目指して、小金井市は資源循環型社会を目指していく決意でございますので、どうか市民の皆様方の引き続きのご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

なお、市民の皆様方のご努力のおかげで、小金井市は人口10万人から50万人未満の

自治体の中で、私たちが出す市民1人当たりの1日当たりのごみの量は全国で一番少ない量です。613.5グラムです。そして、リサイクル率が平成29年50パーセントを超えました。51.8パーセント。これも全国1位という状況でございます。平成29年度のデータでいずれもでございますけど、これ環境省から発表されております。

これだけ大きな成果を上げることができましたのは、何よりも市民の皆様方のご協力と毎日のことでございますので、ご理解のおかげ。多くの方々に減量しましょうねということで、活動いただいたこと。小学校、中学校で行われている夏休みの生ごみリサイクルなどに生ごみを投入していただいて、本当にご努力いただいたこと。市民だけではなくてスーパーなど事業者の方々も自主回収をしていただくなど、本当に小金井の極めて厳しかった危機的な状況を何とか乗り越えることができている状況は、皆様方のおかげでございます。市長といたしましては、このこれまでの流れを引き続き大切にしながら、ごみの減量、リサイクルに取り組んでまいり決意でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

2点目は小金井市の長年の課題でございました庁舎問題についてでございます。私が市長に就任以来、これまでさまざまな議論を行い、建設調査も行いました。そして、福祉会館を閉鎖いたしました。その福祉会館を新たに建てるための（仮称）新福祉会館建設基本計画策定市民検討委員会などでも議論を行いました。市議会の皆様方とも議論を行ってまいりました。市民説明会やワークショップも開催し、市民との座談会など、かなりの頻度でこの庁舎問題については議論を積み重ねてまいりました。

私といたしましては、長年の課題である庁舎問題、施設の老朽化、そして施設の分散化、そして施設が抱えている財政的課題。そして、例えば市議会の4階本庁舎を、エレベーターありませんので、議会を傍聴したい足の不自由な方や車椅子の方は自力で4階まで行くことができないと、バリアフリーの課題などなど非常にたくさんの課題を抱えてまいりました。

そしてこの庁舎は、平成4年に当時小金井市は、庁舎建設予定地ということで、総額119億円の。これはもちろん税金ですよ。財政を投入して土地を購入しました。しかし、以来28年間今日まで、皆様ご覧のように庁舎建設予定地は暫定利用という状態が長く続いています。

こういった小金井市固有の問題を解決するのは私の使命と考えまして、この問題には熱心に取り組んできたつもりです。そして、耐震改修もできないということで、福祉会館はその老朽化が著しく、急遽閉館をするということにならざるを得ませんでした。そして、

今、福祉会館は全てが暫定状態です。そして一方、保健センターという施設がございますけれども、こちらは健康診断や子ども家庭支援センター、ファミリーサポート支援センターなど、とても重要な機能を果たしておりますが、市域の一番西側にあるというようなことでございます。

以上さまざまなことを考えて検討した結果、庁舎建設予定地、市域の中心部、市役所の全ての機能。そして、旧福祉会館のほぼ大半の機能。そして、保健センターの全ての機能を集約化しまして、市役所と福祉会館を複合施設として建設することといたしました。そして今年の、今年度から、令和元年度から、基本設計によいよ移行いたしました。現在具体的な建設に向けた作業を進めているところでございます。

行政及び防災の拠点となる新庁舎と福祉や子育て、共生社会、地域共生社会を目指す（仮称）新福祉会館、あと保健センター。この機能を連携させた多機能複合施設の建設に向けまして、この基本設計にしっかり取り組み、年度内にこの基本設計を終えて、次なる実施設計に進展していけるように、今努力をしているところでございます。この基本設計では建物の構造や配置、各階の基本的なレイアウト、備えるべき機能や設備、内外のデザインなどについての取りまとめを進めてまいります。

3点目は、子育て環境日本一に向けた子育て、教育などに関する取り組みです。私が市長に就任する前。平成27年4月の待機児童数は164人でした。その前年は多摩地域で待機児童率がワーストワンという状況でありまして、小金井市は待機児童対策について、早急に何らかの手を打たなければいけないという状況でありまして、そのときに私は市長に就任をしたということになります。

平成27年4月の保育園の全定員数は当時2,007名でした。今年4月、令和元年5月1日現在の保育園の数の定員数は3,028名となりまして、1,000人以上の定員増を図ったということになります。しかしながら、待機児童はまだ解消されておりません。昨年88名まで減少した待機児童が、今年の4月、総計1,000人以上、1年間で300人弱もの定員増を図りましたが、待機児童の速報値は113名ということで発表させていただいております。いまだに待機児童となつて、保育園に入園できない方がいらっしゃることにつきましては、この場をお借りしまして、市長といたしまして、深くお詫びを申し上げます。まことに申し訳ございませんでした。

精いっぱい努力はしておりますが、ニーズの高まり、人口の微増傾向、社会的な要因。また、10月からは保育園と幼児教育保育の無償化、新たな制度がスタートいたしますが、

現在も来年4月に向けて複数園の保育園の開設に向けたさまざまな準備をしているところでございます。また、その先もまだ必要になってまいりますので、令和3年に向けた新たな保育園などのことも念頭に入れながら、この待機児童解消対策に取り組んでまいります。

また、あわせて小金井は子どもの数がこれから増えてまいります。令和元年5月1日現在の人口が12万2,010人です。確実に高齢者の方々も増えております。全国平均、65歳以上高齢化率は28パーセントでありますけれども、小金井市は21パーセント台。比較的ファミリー世帯や学生の方がとても多いまちとなっています。しかし、高齢化も確実に浸透してまいります。

一方、子どもの数が増えていくと申し上げましたけれども、先般、東京都の教育委員会からですね……。すみません、暑くて汗がとまらなくなってしまいました。先般、東京都の教育委員会がこのようなデータを発表いたしました。5年後の児童・生徒の数でございます。児童・生徒の数が、小金井市は、小学生の数になりますけれども、19.1パーセント増。約2割増えるというデータです。これは多摩地域でトップの伸び率ということになっております。したがって、これ私市長としてはとてもうれしいことです。特にこのご当地、第三小学校が今子どもたちの児童・生徒の伸び率が高いということです。

先日も三小の子どもたちと一緒に給食を食べました。毎日900人分の給食を給食室で作ってくれています。とてもおいしい給食です。これからは、さらなる待機児解消を目指した保育園の増設。また、病児保育の関係など保育の質を高める取り組み。また、学童保育も今年度初めて1,000名を超えました。利用者。大規模化が進んでおりまして、第三小学校では新しい施設を校庭の中に今年度つくらせていただいて、来年の4月に備えます。今、学童保育あかね学童は、1人当たりの面積がとても狭くなってしまっていて、子どもたちにとっても迷惑をかけています。幸い三小は校庭が広がったので、校庭の中に施設をつくることができましたけれども、全部の学校でそれができるわけではないので、引き続き努力をしてまいりたいと思います。

それから、先ほど申し上げた19.1パーセント増、小学生の数が増えるといううれしいことですが、25クラスから30クラス程度新たに普通教室を増やさなければいけないということがあります。当然、連動して中学生が増えてくるものなので、そこに早期に備えていきたいというふうに思っております。引き続き小金井は子育てがしやすいまちということ、1つの糧に私は魅力にしたいと。小金井市はすばらしい自然環境がたくさんありますし、教育環境もあります。大学や高校も多く、すばらしい学園都市であります

ので、この魅力を大切にしていきたいと思います。

また、保育の話に戻りますが、量的な問題だけではなくて、保育の質を高めていくということも大切です。保育を希望する家庭及びその子どもが等しく保育サービスを受けられ、子どもが健やかに成長できるよう、小金井市で今まで存在しなかった初めてとなります保育の質のガイドラインと、今後の保育施策として取り組むべき方向性について定めるため、現在、策定委員会を設置いたしまして、大変熱心なご検討をいただいております。小金井市でこれまで存在しなかった保育計画というものを策定させていただきます。量のみではなく、質の向上も含めまして、引き続き全力で取り組んでまいります。

主要課題の4点目は真の行財政改革の推進についてでございます。財政再建は、小金井市にとりまして極めて重要です。小金井市の財政状況は、私の認識は、極めて厳しい財政状況にあります。その中でどうやって不断の努力をして、市民サービスを増やしていくのか。特に高齢者、子ども。民生費がこれまでも相当な勢いで右肩上がりで行ってまいりましたが、これからはこの民生費、福祉、子育て、教育、あるいは障害のある方々が暮らしやすいまちになるようなまちづくりなど、福祉の予算、民生費の予算がますます必要になってまいります。さまざまな知恵を出し工夫をしながら、この行財政改革に不断の努力をしていかなければいけません。

第三次行革大綱が、私が市長に就任したときはちょうど終了年度でございましたので、市長に就任してから1年間をかけまして、行財政改革プラン2020という新しい行財政改革の計画を策定いたしました。この計画に基づきまして、さまざまなことに取り組んでいるところでございます。民間活力の導入、組織機構の検討、あるいは多様な働き方改革。また、今年の4月からは市民課の窓口業務を民間事業者に委託ということで、初めて窓口委託も開始したところでございます。このほか、市役所改革といたしましては、イクボス宣言に伴う男性職員の育児休業取得率の向上、あるいは残業時間を減らすために退庁時間の見える化や時差出勤制度というものも小金井市で初めて本格的に導入いたしました。

時間外、いわゆる残業時間です。こちらが年間10万時間をずっと超えていたんですけども、平成29年度に初めて10万時間を切ることができました。今9万時間を切ることを目標に掲げておりますが、昨年度は9万時間を目標に掲げましたけれども、残念ながら達成できませんでした。令和元年度はこの9万時間を達成できるように努力をしたいと思います。

行財政改革プラン2020を進める中で、約2年間で4.9億円の財政効果をあげること

ができました。この効果はその全てが市民サービスに還元されてまいりますし、さらなる努力をしていかなければいけないと思います。令和元年度は行財政改革による確かな成果が感じられる1年。新たな行政課題を明らかにし、その対応を始めていく1年とするため、私自身が先頭に立ちまして、全ての職員の方々と一緒に多くの改革を進めてまいります。

続きまして、今年度の主な予算につきまして、ご報告をさせていただきます。お手元の資料、令和元年度小金井市予算の概要を見ていただきたいと思います。お配りしてございます資料は抜粋版でございまして、実際はもっと厚い資料なんですけれども、こちら印刷してまいりますとかなりのことになるので、必要なところだけ抜粋してまいりました。

令和元年度1年間の予算の概要、新規事業、主な事業、そして課題となっている事業、そして充実した事業などを少し絞ったかたちでご報告をいたします。14ページになります。上から2つ目、「計画策定に要する経費」になりますが、皆様大丈夫でしょうか。この資料の14ページ。「環境と都市基盤」というところがございます。「環境と都市基盤」の上から2つ目「計画策定に要する経費」となります。

実は令和元年度はすごい年でございまして、改元が行われた年でもありますし、新庁舎の基本設計も開始しております。ラグビーのワールドカップも行われます。味の素スタジアムを皮切りに。オリ・パラの1年前でもあります。同時に小金井市は非常に重要な計画の策定をスタートする、始まりの年、非常に動きの多い年になります。まず、この中では環境基本計画、地球温暖化対策地域推進計画、緑の基本計画の改訂を行うためのさまざまな準備を行わせていただきます。令和2年度末でこの計画の終了年度でございますので、令和3年度からの新しい計画づくりがスタートいたします。

続きまして、15ページ一番下です。ここは主にごみ処理のところでございますが、先ほど冒頭申し上げました可燃ごみにつきましては、真ん中でございますように浅川清流環境組合負担金ということで、日野市、国分寺市及び本市の3市による可燃ごみの共同処理を行うためのさまざまな予算を計上しているところでございます。

一番下は清掃関連施設整備に要する経費ということで書いてございます。こちらは不燃系の施設でございます。不燃、粗大ごみ、資源物の処理を行うための新しい施設整備。新しい施設を2つの土地に整備いたします。まずは、1つは二枚橋。平成19年まで調布市、府中市、小金井市の3市で運営をしてまいりました旧二枚橋の焼却場跡地に、こちらに今稼働している中間処理場の施設を設置いたします。新しい施設をつくります。

そして、もう一つが現在、中間処理場ということで、貫井北センターの南側に稼働して

いる粗大ごみを解体したり、プラスチックなどを集めているごみ処理施設がございますが、こちらを一度更地にいたしまして、ここに空き缶、瓶、缶、そして古布などリサイクルに  
関係する新しい施設をつくります。二枚橋焼却場跡地と中間処理場に不燃系施設を処理す  
るための新しい施設をつくります。理由は、もう中間処理場の、貫井北町の施設が稼働か  
ら数十年たっておりまして、老朽化が非常に著しく今後のことが大変心配であるからです。

ごみの施設というのは、焼却施設も大体30年と言われておりますが、寿命がございま  
す。ずっと使えたらそれにこしたことはないんですけども、不可能でございますので、  
こちらをしっかりと整備しなければいけないということになりまして、市民生活を守る立場  
から、この清掃関連施設の整備に取り組ませていただきます。

その基本設計などがスタートする年でもあります。したがって、先ほど申し上げま  
したように、今公共施設の課題、待ったなしの課題として3つのことに取り組んでいます。  
1つは、庁舎建設。もう一つは福祉会館、保健センターのリプレース。そして、もう一つ  
が清掃関連施設の整備ということで、浅川、そして不燃系の施設、合計ごみの関係で3カ  
所に新しい施設建設をしているということでございまして、今小金井は大プロジェクト、  
大きな事業に取り組んでいるということをどうかご理解をいただき、ご協力いただきたい  
と思っております。

続きまして、17ページでございます。武蔵小金井駅の南口の第二地区第一種市街地再  
開発事業が大きく進展しておりまして、もうツインタワー26階最上階、もう一つが24  
階それぞれ最上階まで達しました。来年の5月に竣工、その後入居がスタートいたしまし  
て、オリンピックの開会式が行われる夏にこの再開発もいよいよまち開きが行われるとい  
うことでございます。

住宅戸数716戸のマンション。そして4階までが店舗、全部で約11,000平米とい  
うかなり大規模な新しいまちが誕生いたしますので、新たなにぎわいを楽しみにしており  
ますし、新しい広場もできますので、今ある宮地楽器ホール西側にあるフェスティバル  
コートと南北で連動する新しい広場が誕生しますので、これからいろいろなイベントや行  
事などで多くの市民の方々にご活用いただければと願っているところでございます。

そして真ん中あたりに無電柱化基礎調査委託料という予算を計上してございます。私は  
無電柱化というものをかなり積極的に推進していきたいと思っております、さまざまな  
計画を練り上げまして、実は今年の4月にこのように新しい小金井市独自の無電柱化、電  
線を道路に地中化して、電柱をなくしていく、電線をなくしていく、空を広くするという

取り組みです。無電柱化推進計画というものを策定させていただきました。

今、都道を中心に行われているんですが、東京都ではなくて小金井市が独自に取り組む事業でございまして、例えば北口のムサコ一番街、行幸通り、北大通り、農工大通り、あるいは庁舎の南側の連雀通りなど、小金井市として独自に電線類を地中化したり、すべき場所というものを絞り込んでいるんですけれども、そのさらなる調査を行うための予算を計上しているところございまして、ご関心がありましたら、とりあえず回覧をさせていただきますので、ご覧いただければと思います。

そして、一番下がこのご当地の皆様方にとりまして、最も身近で重要な課題の1つだと思いますが、東小金井駅の北口の土地区画整理事業を進めております。今年度は第4期、東小金井駅北口まちづくり協議会を立ち上げます。今、もう、その準備が大詰めございまして、8月中には第1回の会議を開催する予定です。この中では主に東小金井駅北口のロータリーの修景、いわゆるデザインです。市民の方々にご議論いただき、方向性を決めていただきたいと思います。例えば植栽、緑をどのように、何を配置するのか。また、上屋根をつけます。武蔵小金井駅の南口ロータリーのように、改札を出てから雨にぬれないように、バスに乗れるように北口のロータリーに屋根があります。その屋根の関係です、デザインですとか。あるいは街路樹の関係です、北口周辺の道路に植える緑の関係でありますとか、いわゆる修景。こちらを担っていただくためのまちづくり協議会がいよいよスタートいたしますので、北口のまちづくりをさらに前進させる1年間にしていきたいと思います。

続きまして、19ページあたりに入っておりますが、この婦人会館でございます。婦人会館、すみません、長い間、しばらくの間、耐震改修の工事を行っていただきまして、ありがとうございました。しばらく使用できなかったのですが、おかげさまで耐震改修の工事が終了いたしまして、やっと利用ができるようになります。よろしく願いいたします。なりました。30から元年の2カ年で耐震補強工事を実施したということでございます。

そして、真ん中辺でございます。はけの森美術館や茶室「花侵庵」。小金井市で初めて国の登録有形文化財が誕生いたしました。中村研一さんがお住まいであったご自宅、主屋とその横にある茶室が国の登録有形文化財になりました。小金井市初めてでございます。この茶室を修復して、お茶会など市民の方々が利用できるようにさせていただく工事をやります。

20、21ページあたりは、子どもたちにかかわることの予算でございますので、ぜひご参照ください。学校施設整備に要する経費。トイレ工事、屋上防水工事、給食室改修工事。第一小学校には給食室のエアコンの試験的導入。第四小学校ではモデル校として、体育館のエアコンを進めております。現在、特別教室のエアコンを、全校設置を目指して段階的に進めています。プログラミング教育に関するタブレットの導入。20ページ一番下がいじめ防止条例という新しい条例を制定します。

21ページには、外国人の方々に、小学校・中学校にお越しただいて、専門的な英会話の先生としてご努力いただきます。放課後子どもプランを充実すべくスタッフの皆様方の謝礼を、これかなり久しぶりだと思いますが増額いたします。東京2020オリンピック・パラリンピックに関する予算ということで、7月21日、今度の来週ですね、来週の日曜日、参議院選挙の投票日と重なりますが、同日に東八道路、小金井街道で一年前テストイベントを行います。ナショナル24チームが来られますので、ぜひお時間ありましたら、東八道路沿道にお越しいただきたいと思います。

また、総合学院テクノスカレッジの皆様方には、小金井では初めて民間と連携した体育館の市民の方々が有効活用できる覚書を締結させていただきました。一番下、小金井市の総合体育館大体育室には初めてエアコン、空調を導入させていただきます。

22ページ、23ページ、福祉と健康でございます。さまざまな予算を計上してございます。22ページが一番下。手話等対応ポータブル端末ということで、6台のポータブル端末を導入いたしまして、手話や外国語に対応できる新しいシステムを導入いたします。

23ページ、下から2つ目は介護職員宿舎借上支援ということで、これまで保育園の保育士さんに対する、保育士不足に対応するための処遇改善の一環として、保育士さんのお住まいになる住居の家賃補助をしてまいりました。この予算だけでも大体1億4千万円ぐらいになっています。保育園の全予算は平成27年、約30億円だった予算が、令和元年度は総額で58億円にまで伸びています。現在は介護の分野でも人材不足でございますし、処遇改善を求められておまして、介護事業所でお仕事をされている方々の宿舎のご支援するという予算を初めて計上いたしました。その他、新生児聴覚検査に要する経費の充実、里帰り出産ができるように。

24、25ページあたりでは、さらに福祉の関係です。乳幼児健康診査の謝礼の充実。成人歯科検診もこれまで、以前35歳から80歳、5歳刻みだった対象者を20歳から80歳までの5歳刻みに拡充いたしました。おたふく風邪ワクチン接種を初めて令和元年度

からご支援する制度を導入いたしました。24ページの下から2番目、義務教育就学児医療費助成。これまでは未就学児、乳幼児は医療費が基本的には自己負担になってはいますが、無料でありました。小学校1年生から小学校3年生まで新たに所得制限を撤廃いたしまして、拡充をいたします。

25ページ、子ども食堂を運営していただいている方々にご支援する補助金を初めて創設いたしました。支援できるようにいたしました。上から2つ目、保育の分野でも大きな課題だった病児保育が小金井市はありませんでした。病後児保育はございますけれども、大きな課題だったのですが、今年の秋以降初めて病児保育事業ができるよう、今準備を進めているところでございます。これも先ほど申し上げましたここに新しい保育計画の策定やあかね学童保育所の増設などの予算が計上されていることとございます。

そして26ページに関しましては、上から2つ目、小金井市では現在最も重要な、自治体の憲法とも言われる基本構想。基本計画とも言われておりますけれども、分厚いですが、小金井市の最上位計画というのがございます。これは10年間の期間と定めております。これが令和2年度末でこちらも計画が終了されますので、令和3年度から10年間。令和3年から令和12年までの10年間の期間とする小金井市の進むべき、あるべき姿を定めてそしてその施策の中でもさまざまなことを想定しながら、小金井市が目指すべき方向性として掲げる計画をこれから策定いたします。

昨日は、第1回目の長期総合計画の審議会が行われたところでございます。多くの市民の方々に参加をしていただいて、いろいろなご意見をいただきたいと思います。これまでに市民意向調査、学生アンケート、30年後の小金井市の未来を思い描くワールドカフェ、ワークショップ「こが☆カフェ」。中学生、公立5校の子どもたちを対象とした子ども懇談会。18歳から39歳までの市民の方々を対象とした、無作為抽出で30名によるワークショップ。来週は高校生世代ワークショップといろいろな会議体を持ちまして、幅広い市民の方々に小金井市に対する思いやご意見やご要望や願いや課題など、たくさんの方々から意見を今、一生懸命吸い上げているところであります。

私はこの市民の力、地域の力というのを高めていく必要があると思っておりますので、そういったことを積み重ねながら、このよりよい長期計画を市民の皆さんと一緒に作り上げてまいりたいと思っておりますので、どうか御協力いただければ幸いです。

若干時間が過ぎてしまいました。つい駆け足になってしまいましたけれども、以上で私の市政報告とさせていただきます。あとお時間が許す限り、皆様方からさまざまなご意見

いただきたいと思いますので、よろしく申し上げます。まことにご清聴ありがとうございますでした。

### 3 懇談

#### ○司会者

それでは、恐縮ですが、これより着座にて進行させていただきます。

意見交換に入るにあたりまして、事務局よりお願いがございます。フリーテーマということではございますが、せっかく皆さんにお集まりいただいておりますので、他の方が聞いてもわかるような、皆さんで共有して意見を出し合えるようなテーマをご提供いただけますと幸いです。

また、なるべく多くの方にご発言いただきまして、いろいろなテーマについてお話しただきたいと思っておりますので、要点を絞って簡潔にお話しいただき、2分から3分程度にまとめてご発言いただきたいと思います。5分を超えるような場合は、私のほうからお声かけさせていただきたいと思っておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

それでは、ご意見のある方、挙手をお願いします。

#### ○市民A

すみません。本町に住んでおります〇〇と申します。ココバス、いつも使わせていただいているのですが、どうしても現金か回数券になってしまいますので、電子カード、スイカ・パスモ等いつごろ使えるようになるのかなというそれがありまして、ちょっとお聞きしたいなと思いました。よろしく申し上げます。

#### ○西岡市長

ご質問、ご意見いただきまして、ありがとうございます。スイカやパスモなどが使えるようになってほしいということだと思います。いわゆるICカードですね。現在、ココバスの総合的な見直しをしております。高架線になってから約10年近くがたとうとしております。ココバスは今から15年前に誕生しました。ココバスの総合的な見直しにも着手をしております。その中で利用料金のあり方や料金の支払い方法などについて見直しをしていきたいと思っております。私としてはそういう電子決済といいましようか、カード

決済などができる方向を、ぜひ目指していきたいと思っております。

まず、ココバスが誕生して15年たちました。この間に高架線が誕生しました。踏切がなくなりました。南北の移動がしやすくなりました。武蔵小金井駅南口の駅周辺のまちづくりなどが今進捗しています。東小金井駅北口の区画整理事業も進展しています。この15年間の間に大きなまちづくりが駅周辺で行われるとともに、まち並みも変わってまいりましたし、人口もこの15年間で大分増えてきました。さらに新庁舎、(仮称)新福祉会館、保健センターの集約した複合施設に、庁舎建設予定地に建設いたします。

したがいまして、今ある5路線。北口1路線、南口4路線ココバスのルートを全て総合的に見直します。今、その作業を行っております、今年度から地域懇談会というものを頻繁に開催させていただきます。そこで、地域の方々から、ココバスに関するさまざまなご意見ご要望いただきながら、約4年かけて総合的な見直しを目指したいと思っております、令和4年度を1つの目標といたしまして、令和4年度からの新しい路線のスタート、新しいサービスのスタートということを念頭に置きながら、今、改定に向けた、総合的な見直しに向けたさまざまな事業を展開させる予定です。

料金につきましてもその中で検討いたしますので、もう少しお待ちいただきたいと思えます。ただ、短期、中期、長期とありまして、短期的にできるサービス拡充はこれまでもやってきたんですけれども、総合的な見直しではなくて、前倒ししてやるべきサービス拡充については、実施していくつもりでございますので、今しばらく、ワンコイン100円、どこに乗ってもどこで降りてもワンコイン100円とわかりやすい制度。これもとても好評です。

ですから、どういうご意見をいただけるかこれから積み上げてまいりますが、やはり今、便利なワンコイン100円は残してほしいという声があります。なので、今後、利用料金、支払い方法につきましては、さまざまな角度から検証いたしまして、より便利で、また、この事業が長く続けられる持続可能なココバスとなるように検討してまいります。スイカやパスモが使えるようにというご指摘をたくさんいただいておりますので、実現できるように私としては努力してまいります。

○市民A

ありがとうございました。

○司会者

ほかにごございますでしょうか。

○市民B

すみません。ガールスカウトという東京都109団に所属しております〇〇と申します。このたび、緑センターの緑地が住宅、相続税の都合でどうにか住宅になるかもしれないというので、ご本人様は相続税を払う手段として売ると。その売り手が、私たち一般市民からは、ぜひ市に一部でも買ってほしいという願いがございます。

それはなぜかといいますと、緑センター、浴恩館の端に野外場がございまして、そこが私たちも含め、子どもが小学校のときPTAとか野球の関係とかいろいろ活動させていただきました。それがとってもありがたくて、ここにもある「ほどよく都会、ほどよく田舎」、小金井にはとてもぴったりの言葉だと思っております。それをどうしたらよいかということの方向性を、ぜひ市のほうのご意見というか、方向性。一市民としてどうしたらいいのか。一応今まで署名活動とかいろいろさせていただいているんですけども、その先とか本当にどうすればいいのかわからないというので、考えていただきたい。

うちの団に、障害手帳を持った人間がいるんですけども、車を、今あそこは一応駐車禁止なんです。1台だけ受付に申請すると、置かせていただけるんですけども、1台なので、ほかの団体の方でも障害手帳をお持ちの方がいらっしゃると、もう止められないので、そんなようなことも何か施設として、駐車場みたいなのは考えていただけないかなと思っております。

○西岡市長

この件、ほかの方もいろいろご意見お持ちの方がいっぱいいらっしゃると思うので、このテーマに絞った形で、ここでご質問いただいて、また答弁して、お答えして、意見交換して。また違うテーマが来てまた戻ると。おそらく行ったり来たりになるので、このテーマでご意見、ご質問おありの方は、この場で集中的にいろいろなお声を聞かせていただきたいと思いますので、よろしく申し上げます。

まず、個人の財産に係ることなので、ここでの発言は、大変申し訳ないのですが、市長としては慎重に発言をさせていただきたいと思っておりますので、どうかご理解をいただきたいと思っております。前回の市民と市長の座談会の場でも、多くの方々からご意見をいただきましたし

た。そして、市長室にも関係者の方々にお越しいただいて、ご署名をいただきました。現在、小金井市では、情報収集に努め、ご署名いただいているご要望の内容について、いろいろ検討しているところでございますので、今日の段階ではそういったご答弁とさせていただきますと思います。

私としても、あの浴恩館、浴恩館公園、バーベキュー場（野外調理場）、あそこにある緑、あの施設、そしてあの緑地。その存在意義はとても高く、小金井市の財産と思っています。私もあのバーベキュー場（野外調理場）大好きです。いろいろな方にいろいろなイベントをお誘いいただきます。私も市長になってから、あそこ一度バーベキュー場（野外調理場）が非常に老朽化が激しいということになりましたので、使えるように、十分ではなかったかもしれませんが整備をさせていただきました。本当にたくさんの方々、あそこを愛好している方、燻製をつくっている方もいたり、ガールスカウト、ボーイスカウト、餅つき大会、地域の方々の交流。すばらしい場所です。

小金井では市立公園でバーベキュー場（野外調理場）ができるのは栗山公園と浴恩館公園。おそらく市の施設としては2カ所だと思いますので、貴重な場所だと思います。その浴恩館の持てる機能や、今あるあそこの緑地は市のまさしく宝物であり財産だと思っていますので、そういう思いを持って私としては、これからも市政運営に努めてまいりたいと思っています。

以上です。

○市民B

ありがとうございます。

○西岡市長

いいですよ。ご意見があれば。

○市民B

いえいえ、もう本当に今後楽しみです。火を使えるので、私たちいわゆる楽しみでバーベキューやるようなコンロじゃなくて、訓練として、子どもたちの生きる力とか、直火、かまどありますから、そこで火をたいて、まきで火おこしたり、飯ごうとかやっているの、今、栗山公園とか小金井公園にもバーベキュー場あるんですけども、それとちよ

っと違う私たちの活動なので、それをとられると、何ていうんだろう。今、新しい便利な物っていっぱいありますけれども、子どもたちにちょっとでも前のこととか、感じてもらいたいので、お願いします。

○西岡市長

はい。私も何度も利用したことがありまして、今、利用していませんが、阿波踊りの連に入っているときは、50人ぐらい。小さな子どもから大人も一緒になってみんなで餅つき大会ね。1月必ずやっていました。ボーイスカウト・ガールスカウトの方々には、実際に飯ごう炊飯とか訓練的な要素があるということで、おっしゃるように他の公園のバーベキュー場とは異質な空間もあるし、利用形態ができる。ときには緑センターで宿泊的に利用されている方もいらっしゃいますし、お布団も借りられるようになっています。

この浴恩館公園のバーベキュー場（野外調理場）の機能というのは、失われることはあってはならないと私も思っておりますので、その思いを持っているということでございます。

○市民B

駐車場の件なんかどうでしょう。駐車場の件はいかがでしょうか。

○西岡市長

そうですね。ご指摘のとおり、緑センターには十分な駐車スペースがなくて、例えば障害がある方が使える専用スペースというのがあったほうが望ましいと思います。浴恩館公園も、非常に狭い緑小の正門の北側から入っていくと、非常に狭い道を入れていって、駐車場としての整備スペースではないかもしれませんが、停める場所はあるんですけども、そこは木の下だったり狭いところに抜けていくところになりますので、緑センターも浴恩館公園も当然駐車スペースというのは、これはもう当然あったほうが望ましいとは考えております。ただ現状ではないということですね。

○司会者

この件につきまして、何かご意見ある方いらっしゃいますでしょうか。

## ○市民C

緑町三丁目に住んでおります〇〇と申します。私、子どもが5年生の男の子と中学2年生、ダウン症体質持つ子が緑中学校の普通級に行っているんですけども、7年前に世田谷区のほうから小金井市のほうに引っ越してきました。引っ越し当初から、浴恩館公園すぐいすてきな場所だなと思って、子どもと火おこし2人でしてみたことがあったんです。そしたら1時間ぐらいつかなくて、諦めたことがあったんです。

今日も「こういうのに行ってくるね」と言ったら「俺も行きたい」って。「何で行きたい」って言ったら「あそこの場所を守りたい」って。「いろいろな人に使ってもらいたい」って。「それはなぜ」って言ったら「みんなで火をおこす体験を子どもたちがすることを体験してほしい。僕もできなかったけれども、できたときに心が温まった」っていうんです。「うん、そうかそうか」と。「できないことができるようになって、何かあったときにどこでも生きていける。そういう自信をここでつける子どもたちが増えたらいいなと思う」ということとか、あそこには、子どもだけじゃなくて、おじいちゃん、おばあちゃんや、わんちゃんが散歩している方たちとかいろいろな人たちが行き交う場所なんです。

そこを大切にしたいなと思うことと、上の子が学童行っていたんですけども、緑小学校とみどり学童に行くときに、道路があるんです。懸命になって子どもが行き来すると、右左見ないで通って、今まで事故がないのが不思議なぐらいだなんて私は思っています。住宅街にあるみどり学童が、今、緑地になっている土地のほうに、児童館と学童が一体になって、高齢の方も障害のある方も集える場所のようなものができるようになったら、学童に通う子どもたちたくさん命が守られることの1つになるかなと思うし、自然の中で遊ぶという体験も子どものうちからできるなと思っています。

ここに「子育て環境日本一の小金井に」ということ。そして「共に学び、共に生きる小金井市を目指して」。こういうことがそこを充実させることによって、どこの地域からでもそこを活用できるような小金井市の大きな拠点になっていくんじゃないかなというふうに思っています。

あとは、近所のおばあちゃんとかおじいちゃんが、「あそこでイベントがあるから行きましょう」って誘うと、「坂道だから私は行けない」って。「〇〇さんが乗せていってくれるなら行けるんだけどもな」って。乗せていくけれども駐車場がないからどうしようかなとか。じゃ送ってから戻って、また戻ってくればいいのかと思うけれども、障害のある人や高齢者の方たちも、緑分館とつながってすごくいい場所になっているんじゃないかな

と思っています。歴史のある場所だし、ぜひ守っていきたくと思っています。よろしくお願ひします。

○西岡市長

熱い思いといいましょうか。非常に大切な思いを伝えていただいて、ありがとうございました。その思いは十分伝わっているつもりです。

浴恩館公園、改めて申しますが、今ある浴恩館公園は、将来世代にもずっと守る。これは絶対必要だと思っています。位置的に緑センターと浴恩館公園の近接性の高いところのご指摘だというふうに理解しておりますけれども、改めて個人の財産にかかわることなので、私のほうから、今日の時点で発言することは慎重にならざるを得ないと思っておりますが、皆様方のいただいたご要望というものについては、庁内でもいろいろな情報収集に努め、そして、今後のあり方については、要望内容と照らし合わせまして、小金井市としてどういう方策が望ましいのか。そして、今、小金井市に置かれている今の現状。こういったことを含めて、さまざまな角度から検討してまいりたいと思っております。

なお、浴恩館公園の魅力はもう言うまでもなく、また、土地の持つ価値、小学校、浴恩館、緑センター、玉川上水、小金井公園と連続性のある場所。また、あの特性もあると思います。そういったこともしっかり踏まえていくべきだと思いますし、小金井市がもっともっと市内外の方々にあの魅力を、歴史の重要性をもっともっと伝えていかなければいけない場所だとも考えております。

○市民C

5日間で千人ほどの署名も皆さんのおかげで集まったということもあります。あとは、小金井市の教育長のほうからも、あそこが住宅になってしまっただけは、もうおしまいだねっという感じで、何か市民で力を合わせてできることがあればいいということでもあります。あと、署名のほうにも、あそこの家族の方も署名してくださっているということもあって、そしたら動きもいかなさと思って、力を合わせているところです。よろしくお願ひします。

○市民D

浴恩館の話なんですけれども、私は貫井北町に住んでいるので結構離れているんですが、

すごいすてきなところなんです、私の家ぐらいからだとかかなり離れていて、行くのがすごい大変なんです。車で行こうと思っても、停めるところもほぼないような感じなので、小金井街道沿いの小さい駐車場なんかには停めたりとかはするんですけども離れているし、障害者の方とか高齢者の方向けってそういう意味での駐車場があれば最低限もしかしたらいいかもしれないですけども、一般の方向けというか、一般向けの駐車場もやっぱり私は必要かなと思っていて。

というのは、あの立地からするとそのぐらいのものがなければ、市外からはまず人は来ないと思うんです。だから、あそこをもっとシティプロモーションとして位置づけて、市外からも人を呼べるようなところにするには、もうちょっとちゃんとした駐車場が必要なのかなという気はします。

それで、あと、そういうバーベキュー場だったり浴恩館の建物だったりって結構老朽化していて、いろいろな対策が必要だったりすると思うんですけども、その使い方なんかを市民参加とかでワークショップをやって、公園のワークショップに私は参加したんですけど、そのときみたいにいろいろな意見を皆さんで出し合って、使い方だったり要望を吸い上げて計画をつくっていくといいんじゃないかなって思います。

以上です。

#### ○西岡市長

貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。ご意見として、承らせていただきます。駐車場のご要望が結構続いているなと感じています。多くの方々が、駐車場がないことによる不便を感じているんだなということはわかりました。ココバス、あるいは自転車、徒歩などさまざまな方法で今は多くの方々に来ていただいておりますが、駐車場の必要性ということが強く言われているなということはよく認識しています。

使い方について、もっともっと市民の皆さんのワークショップなども市民参加で、ということではありますが、浴恩館サポーターという市民の方々がとても熱心に地域を守っていただき、ボランティアも一生懸命頑張っていただいております。感謝いたしております。そういった方々のご意見もいただきながら、今いただいたご意見は環境政策課や生涯学習の担当にまかされますけれども、私のほうからも担当にしっかりと伝えておきたいと思えます。以上です。

## ○市民E

東町5丁目の〇〇と申します。私は毎朝、栗山公園でラジオ体操をやっていて、その世話役をしているんですけども、小金井市の公園で稼働率といいますか。利用される方が多い公園のトップは栗山公園、次が浴恩館、その次が上水公園。そういう順番になっていると思うんです。今、お話があります浴恩館の野外炊飯ができるバーベキュー広場というところは、敷地は浴恩館の敷地にあって、管理は緑センターなんですよね。例えば栗山公園にもバーベキュー広場あるんですけども、あそこの管理は市役所がやっているわけですよ。

そうすると、当然登録で使えますよという申請をして、はいどうぞという形でやっているんですけども、目が届かないせいか、我々、栗山公園を利用している人間としてはあまりにもひどい使い方をされる。今さっきのあれじゃなかったですけども、あそこで炭火を使ってはだめだ、ガスコンロを持って来てやらなきゃいけないはずなんです、炭を使った形跡がある。そういうものを水場のところで消火するために持って行って、それはいいんですけども、ほったらかしにする。ひどい奴になると、ベンチの板を剥がして、それを燃やすやからもいる。そういうようなことをやる連中がいる。

それをきちんと管理しなきゃいけないのは市役所の仕事だろうと思うんですけども、あそこの浴恩館のバーベキュー広場は、そういう土地の管理者と、それから施設の管理者が違うということで、本当は一緒にすれば1つの事業体が管理する形になるかと思うんですけども、もう一つの方法としては、緑センターの近くに施設を移して、それで緑センターが管理するというふうにすれば非常に効率がいいというか、きちんとできるんじゃないかなと思います。

私ども時々利用しているんですけども、あまり浴恩館のところで緑センターの人たちが管理しているにもかかわらず、炭をその辺に捨てて帰っているとかそういう形跡が見られるので、それはそのたびに緑センターの人には言うんですが、そういうところが甘いような感じがしてならないんですが、市長どういうふうにお考えでしょうか。

## ○西岡市長

浴恩館公園のバーベキュー場（野外調理場）の管理についての考え方ということでよろしいですよ。

○市民E

はい。

○西岡市長

1つは、やはり使う方のまずマナーです。管理している市のせいだというふうに言われてしまってもそれはずっと監視しているわけじゃないので、やはり利用する方がまずはちゃんとルールを守り、そして、炭などをまいたり捨てたりとか、火事の危険もあるわけですから、まずは利用する方のマナーが一番大事だと思いますし、掲示をもっとするとか、常時職員が見ているのもよくないと思うので、監視しちゃうことになりますから。基本的には使い方、大人ですからちゃんとしてほしいなど。まずはそっちのほうです。

今の管理で、緑センターが管理しているのがよくないということなんでしょうか。

○市民E

いや、そうじゃなくて。

○西岡市長

マイク使ってください。

○市民E

あるところの、土地の管理が、土地は浴恩館の土地ですよ。けども、あそこのバーベキューの施設の管理は緑センターですよ。そういうふうに分かれているのはまずいんじゃないでしょうかというそういう意見なんです。

○西岡市長

浴恩館のほうで管理したほうがいいのかということなんじゃないかね。

○市民E

それはどちらがいいかは市のほうでお任せしますけれども、今のそういうような矛盾というか土地と施設の管理者が違うというのはいかなものかというのが私の考えなんですけれども、であれば、おっしゃたように場所が浴恩館にあるから浴恩館が管理する。また

は、その場所を緑センターのほうの近くに持って行って緑センターが管理する。というのは、浴恩館の博物館的な施設からすると、あそこを管理するというのは場違いなような感じが私はするんです。緑センターのほうがいいような感じはしますよね。

#### ○西岡市長

あまり縦割りの発想ばかり言って、物事を申し上げててもよくないと思うし、臨機応変な対応だとは思いますが、こちらあまり言いわけがましくこの団体はここの所掌事務でとか、生涯学習なんで今回の方々、文化財のほうとか、バーベキュー場（野外調理場）の管理運営はしていないとか、そういう話をしてあまりよろしくないと思うので、ご意見としては承りました。

ただ、緑センターの中にいろいろな物が置かれています。バーベキュー場（野外調理場）にかかわる。市民の方々のご要望にもお答えしているつもりですし、あそこで使う調理器具も緑センターのほうで保管しています。今のご指摘だとそういったもの全部じゃあ浴恩館に移すのということになれば当然またいろいろな整理が必要なので、私の理解では公民館活動を所管する緑センターが、ほんのちょっと離れていますよ。すごいわけじゃなくて見える範囲ですけれども、お隣です。ほぼ隣の敷地なので、十分許容範囲の中で市民の方々からお寄せいただくいろいろなご要望。こういうもの貸してほしい、ああいうものを貸してほしい。それは、今の浴恩館の文化財センターは貴重な重要な物をたくさん保管していますし、スペースがないので、緑センターが代わってといいまじょうか。生涯学習公民館活動の一環ということで、市民の方々のご要望にも一生懸命応えてきたんだと思うんです。

その歴史があるということはどうかご理解いただいた上で、今後のことを考えていただければなと思いますが、もちろん我々も考えますけれども。私はそれを全部浴恩館のほうに、管理も物の保管も何事も移設してやるというのは、ちょっと時間、準備が必要かなと思います。現実的にはなかなかあの文化財センターに置くのは難しいので、そのためにまた新たな何か建物をつくるというふうにはいかないで、現実的な部分で言うと、緑センターの施設の活用、あそこにある倉庫です。そういったものを活用して、かなりな機材だと思います。全部出してみると。餅つきセットも確かあったと思いますし、相当な調理器具がありますし、その他もろもろいろいろなものを保管していますので、そういった意味で言うと、今の形が結果としてそうならざるを得ないということになるかもしれませんが、

そういうご意見があったということは、しっかり受けとめて担当のほうにも伝えさせていただきます、私も考えます。

#### ○市民E

といいますのは、今、亡くなられた地主の方の土地が例えば民間に払い下げられてとか売られて住宅地になると、もうあの浴恩館のバーベキューの場所というのは、ちょっと存立できないんじゃないかなという気がするわけです。例えば火の話だとか煙の話だとかにおいの話だとか。そうなった場合には、例えばその場所を全部駐車場だとか何か施設を建てるために市が購入するという形にしましても、あそこの場所に存続できるかなという気が私はしているわけです。それで、今、緑センターの中に陶芸の窯を置いているんです。あの横に少しスペースがあるから、そういうところに持っていくというのも1つの手ではないかなという気がしているので、そうなる緑センター全体で管理ができるんじゃないかなというふうに考えましたので、そういう意味の話をしたわけです。

#### ○西岡市長

それは、現時点では仮定のお話を想定しているということなので、私のほうではまだ今その部分の領域にはお答えがなかなか難しいですが、ご意見として承ります。

今このところに浴恩館公園や公園の管理ということでいろいろなご意見をいただきますが、今年の3月に初めて小金井市では公園等整備基本方針という、これは方針です。策定をいたしました。かなりの、私市長に就任してから国の事業を活用したりしながら、小金井市では、私は水と緑と桜と公園のまちでありたいと、そして学園都市でありたいと思っているところですが。たくさんの公園がありまして、そして公園にも大規模、小規模、中規模、市立公園もあれば都立公園もある。いろいろな種類の公園があります。マンションや住宅の開発工事に伴って、事業者の方々がつくりだす公園もありまして、公園と言っても本当にいろいろな公園の種類あります。小さな公園でほとんど利用されていないだろうと思われる公園もあれば、今ご指摘あったように栗山公園のようにたくさんの方が利用する公園もあります。

この公園、これから将来的にどうやっていくのか。管理運営の経費もかなりのものになりますし、そこに植えられている緑もいずれ老朽化する 때가やってきます。そして、小さな公園、ほとんど利用されていない公園。本当にこのままでいいのかなどなどさまざま

な観点から小金井市の公園の今後の将来像というものを、ワークショップなど設けまして  
つくりましたので、ご関心のある方はぜひご覧いただければと思います。回覧しますので。

以上、よろしいでしょうか。

○市民E

はい。

○西岡市長

それでは、浴恩館の件についてまだございますか。よろしいでしょうか。

はい。じゃ、ほかのテーマで何かありましたら、どうぞ。

○市民F

すみません。

○西岡市長

どうぞ。

○市民F

東八沿いの前原四丁目の〇〇と申します。よろしく申し上げます。

東八沿いの道路に自転車が走れるスペースと歩道と自転車がすれ違うような道路になって、最近そういうふうに区分けをしたんですけれども、ずっと同じそのままかと思うと、今度、木があって、ちょっと行くとすぐに自転車が走れない。それでずっと行くと思って走っていると走れないようなところがあるんですよ。うちの前からずっと国立のほうを走っていきますと、結構そういうところが多いので、同じ調子で走っていると危なく感じる  
ことがあるんです。あれは木があるからなのか、あの辺どうかして、一本調子で行けるのが一番よろしいんですけれども、何かの都合でそこでとまってしまうんです。それはどんな……。私、そこをいつも利用して買い物とかに行っているんですけれども、真っすぐずっと右側、交番のね。走っていけるんだったらいいんですが、途中で切れるんです。自転車が走っている場所が。あれってどういうあれでそういうふうになったのかなということを知りたいなど。危ないんですよ。真っすぐ行けるのにもう行けなくなっちゃって、木

があったりとか、そういうところを使っている者じゃないとわからないと思うんですけども、どういう都合でそうなっているのか。あまり行ってすぐまたそこで走れなくなるような道路はすごく不便なんです。その辺のところを教えていただければ。よろしく願いいたします。

○西岡市長

東八道路の自転車専用道路における障害物について。これは東京都の事業なので、私の知っている範囲でお答えさせていただき、その要望は何らかの形で東京都にお伝えをできる……。

○市民F

あれってちょっとおかしいなと思って。ずっと真っすぐ自転車で走っていけなくて、走れなくなる場所がすぐ来るんですよね。なので、その辺教えていただければ。

○西岡市長

おっしゃられている場所は、東八道路と小金井街道が交差する交番。

○市民F

そうです、そうです。

○西岡市長

そこから東側エリアにずっと二枚橋をさらに越えていきまして、ICUも越えて、どこら辺まで行きますでしょうか。調布のほうまで行きますでしょうか。ここは東京都が自転車専用レーンと歩行者専用レーンを分離して、整備するモデル地区として、モデル事業として行っている事業です。かなりの年数をかけてつくっています。一番西側がその小金井街道と東八道路が交差する場所で。

○市民F

そうそう。

○西岡市長

東側の起点が、今、資料がないのでわからないんですが、おそらく調布のほうまで行くと思います。東京都はそのことも検証しています。

○市民F

そうですか。

○西岡市長

途中で木が出てくるというのは、おそらくもともとあった木なんだろうと思いますよ。それを伐採してしまうと、今度は逆にどうして緑を大事にしないんですかという声もきっと出てくる可能性があるんで、設計上やむを得ず残しているのではないかと予想されます。

といいますのは、大きな木ですから、後から植えた形跡はないので、そもそももともとあったとしか考えられないです。後から大きな木をど真ん中にどんと置くということは考えにくいので、もともとあった街路樹をいかしながら、伐採せずに設計したと思うんですよ。

ですから、そこを今度は通過しづらいので、木を切っちゃいなさいと言うと、おっしゃると、これはまたこれでいろいろな批判を呼ぶんですね。

○市民F

そうですね。自然のね。

○西岡市長

これは非常に悩ましいところかもしれませんが、ご意見としてはもう全部切ってほしいと。

○市民F

いや、切らなきゃ、やっぱり、あれですね。そうすると、何ていうのかな。そこから自転車は曲がって自転車道路じゃなくて歩道のほうにまた入って次のところに行くみたいな感じになるので。

○西岡市長

あれですよ。そこまでお詳しいというのはかなり自転車でそこを走っていらっしゃるということですよ。

○市民F

そうです。

○西岡市長

普通の方でそこまで行かないので、結構遠くまで行かれているんだなと思って感心しております。あの坂を上って。

○市民F

そうですね。仕事上その区間を利用しているので。でも、野川公園のほうは真っすぐにとっても走りやすくできています。ただ、その野川公園を越えて、交番を曲がるコーナーあります。あのあたりからちょっと何かぐちゃぐちゃとなっていますので。野川公園からうちの前ぐらいまではずっと行くんですけども、私がちょうど走るところはそんな具合になっているので、やむを得ないでしょうかね。そしたら。

○西岡市長

そうですね。更地の状態から、最初から車道と自転車専用レーンと歩行者専用レーンとそれを両方とも両サイドにつけるとい設定ができれば何のバリアもなく真っすぐ行けますが、もともとあった、歩道にあった緑や植栽をおそらく残しながらのモデル事業だと思います。なので、多少ご不便な、東京都ではないんですけども、ご不便あるかもしれませんが。

○市民F

そういうあれなんですね。

○西岡市長

と予想します。予想します。

○市民F

モデル的なあれなんですね。

○西岡市長

はい。モデル事業でやっております。

○市民F

野川公園の辺は本当に走りやすくて、真っすぐ来るんですけども、問題は私が通っているところが一番何か危ない。すぐ木が。やっぱり木ですね。

○西岡市長

これですか。国分寺、国立、府中方面ですか。

○市民F

そうです、そうです。

○西岡市長

わかりました。

○市民F

あのあたりがもう少し何か見通しがよくなっていくといいのと、イチョウがあるんです。イチョウって下のほうに木の枝が脇から出るんです。そうすると私の視界に入るところから枝が出ていると、前が見づらいんです。だからその木の伐採のときに、目の高さというか、もう少し上のほうで下に出た枝を切ってほしいんです。走っていると前が見えなくなっちゃうんです。冬になると葉っぱはなくなるんですけども、今の時期、茂ってくると下のほうに残った枝が邪魔するんです。走るときに。だから、もう少し手入れするときに、上のほうは残してもいいんですけども、下の目線のところを切ってほしいんですよね。そういうことをお願いしたいと思って。

○西岡市長

東京都の道路なんです。東八道路は。なので、基本的には東京都のほうに、そういう窓口もありますし。

○市民F

そうなんですね。

○西岡市長

連絡先もあるので、お伝えしていただくこともいいと思います。また、いろいろなご意見もいただいたので、街路樹のこととか。

○市民F

剪定のときにね。

○西岡市長

はい。東京都の北多摩南部建設事務所。

○市民F

そうなんですか。

○西岡市長

東京都の北南建というところが、いろいろな管理しています。街路樹の剪定作業。それから、街路築造工事。拡幅工事など東京都の北南建という組織が都道を管理していて、小金井市はあそこの工事は一切対応できないんですよ。

○市民F

そうなんですか。

○西岡市長

申し訳ないんですが。ただ、いただいたご意見はちゃんとこの議事録も含めて担当部署

に行くので、担当課から東京都のほうにもこういうご意見がありましたとお伝えしますけれども、より強力に、思いが強いと思いますので。

○市民F

そうですね。利用している、毎日通るので。

○西岡市長

東京都のほうに連絡されるのもとても重要なことかと思います。

○市民F

わかりました。

○西岡市長

北多摩南部建設事務所。後で担当のほうからもお伝えします。

○市民F

じゃ、そちらのほうに連絡すればいい……。

○西岡市長

私もお聞きしたので、担当課、道路管理課あたりから、東京都の北南建には市民の方からこういうご意見がありましたよということは確実にお伝えしますが。

○市民F

よろしく、ありがとうございます。

○西岡市長

直接、お伝えされることも大事かと思いますので。

○市民F

ちょっと我慢しなきゃだめですね。時々、とまるところに。

○西岡市長

そうですね。今度、聞いてみないとわかりません。先ほど申し上げたように、もともとあった街路樹や自然体の植栽をいかしているとすれば、それを撤去、例えば非常に大きな樺とかありますと、今度はその緑を大切になぜしないんですかというご意見も出てくる可能性が十分考えられまして、すみません。

○市民F

はい、わかりました。

○西岡市長

モデル事業ということなので、更地の状態で最初から全部計画的に道路にすればそういう障害物はないんですが、もともとあったところをいかしながら工夫している部分があると思います。

○市民F

なるほどね。

○西岡市長

特異な、特殊な例だと思うので。

○市民F

あのレーンは最近できた、前からあったものじゃないですからね。

○西岡市長

いや、ないです。最近です。

○市民F

とてもいいんですけれども、そういうことがあるのでお聞きしました。どうもありがとうございました。

○西岡市長

よろしく申し上げます。

○市民G

梶野町の〇〇と申します。先ほど、第三小学校のことにつきまして、市長からいろいろご説明をいただきました。私ども、第三小学校は校長先生、副校長先生、今年2人ともおかわりになりましたので、4月の終わりごろでしょうか。校長先生、副校長先生お会いしまして、いろいろお話をうかがいました。児童数で八百六十何人いらっしゃって、26学級ある。ところが施設が全然増えないんです。ですから、いろいろな特別の教室を潰していろいろ授業するようなどころになっている。これからまた児童数が増えていくというようなお話もさっきありましたので一体どうなっちゃうんだらうなというふうに思ったりしまして。先ほど説明もありましたので、第三小学校、生徒数が増えるんですけども、何かやりくりしてやっていくのかなと思ったし、職員の方だけでも70人を超すという話で、なかなか大きな学校になっちゃって。

ですから、そのところはこういうふうに市としてもやっていくんだらうということと、それから、あかねが増設の工事がここで始まるんですかね。1学期が終わったころから工事が始まるということもお聞きしましたので、そんなことでいろいろご心配はいただいているんでしょうけれども、この前、校長先生、副校長先生お会いしまして、いろいろお話を聞いてきましたので、私なりに納得はしているんですが、市のほうで一生懸命やっていただきたいと思っております。

それから、先ほど……。全部言っちゃいますけれどもいいですか。その東八の道路のことも、さっき私の方の方が話しておりました。実は私も今日二枚橋から府中球場に行ったものですから、あっちのほうをずっと走っていて、時々走るんですよね。確か狭いところは運転試験場のところに歩道橋がありますね、そんな関係があって、あそこのところは狭まって自転車が通るところがなくなっている。

運転試験場。運転試験場の前にでっかい歩道橋があるんですよね。そのところで自転車の道路が切れちゃって、一般のところに入っていくんです。

○市民F

そうそう。危ない。

○市民G

そういうところがいろいろあるんです。ですからその先に行って、ホンダの車を売っているあそこのところもそんなところが、ところどころ切れているということがある。それから、下に植わっているツツジみたいなものが生い茂っちゃっていて、自転車の通るところを狭めているというところがありますので、先ほど市長おっしゃったように、それはそれでやってくださるということでもいいかと思うんですけども、試験場の前はああいうことでもう直らないと思うんですよ。多摩墓地側を通っていくとなかなかいいと思うんです。多摩墓地側を通っていくならば、ほぼ真っすぐにだーっと思えるという感じですので。

第三小学校の、何か最近の話ですけども、私、確かめていないのですが、何か痴漢が出たようなことを聞いているんです。確かめてはいないんですが。そんなことについて。防犯カメラが梶野町は2つしかないのかな。お寺さんの西側と電機大学の門のところかな。そこしかないんです。カメラがあったらいいのかってそれだけではいけないのかと思うのですが、何か防犯上それでいいのかなと感じているんですけども。

○西岡市長

以上でよろしいですか。

○市民G

はい。

○西岡市長

ありがとうございます。多岐にわたるご質問いただきました。

まず第三小学校です。私は今、市長に就任してから、高架線になったことによって、本来はもっと早くに検討をしておくべきだった。しかし、私が市長就任したときには十分な検討が全く行われていなかった2つのことに取り組んでいます。1つはココバスの総合的な見直しです。もう一つが小・中学校の学区域の見直しです。

これは全部開かずの踏切。つまり高架線になる前に南北を分断していたこの踏切があるのを大前提として、学区域も踏切を越えないように。一部越えてしまっていたところはあ

るんです。四小で一部あるんですけども、基本は踏切を越えないように学区域が設定されていますが、今なくなったわけです。高架によって。

もう一つココバスも南北路線はないわけです。北に1路線。時計と反対回りに1路線と南に4路線あります。これも高架線になって踏切がなくなったんです。南北が通れるようになったわけなので、今、中学校・小学校の学区域の見直しの検討を教育委員会のほうにお願いしています。これは、そんなにすぐにはいきなり来年度からとはいけませんで、兄弟で通われている方もいらっしゃるし、また、なかなか強制的なこともできないと思っています。調整区域をつくらなければいけないと思っているので、少し段階的になっていたり、時間はかかるかもしれませんが、地理的にまずは南北が通れるようになったということ。

それから、小金井市のまちづくりや人口動向などによって変化がありまして、とても増えている学校と微増している学校と。減少している小・中学校はないんです。基本的には横ばいから増えている。この中にあるんですけども。しかしその傾向に濃淡がありまして、その結果、小学校でも最も少ない学校と最も多い学校では相当な開きがあって2倍近くになっていたり、小学校も中学校でも最も少ない学校と最も多い学校ではかなり格差が出ています。

それを解消するための1つの手段として、学区域の見直しというものを今検討しています。大胆に根本的に変わるというものではありませんけれども、今ある学区域が基本になりますが、ある区域は調整区域にして、本来はA校だったけれども、B校にも行けるようになるよというような区域を設定するとか、エリアをですね。そういったことを今、検討しているところで、教育委員会のほうでいろいろな議論をしながら、関係者の方々と今、議論、検討しているところでございます。

三小、特に梶野町です。この5年間の人口動向を、小金井の全ての町、梶野町とか桜町とか関野町とかで見ますと、おそらくこの数年人口増加率が一番高いのは梶野町でございます。私が見たデータだと110パーセント増。つまり、1割増えてきているというデータがあります。今後もその傾向は高いかなと。東小金井駅の北口の区画整理なども相まって増えるでしょうし、私、小金井というまちは、落ちついていたたり、それから南口に魅力的な小店があったり、小金井公園とつながっていたり、浴恩館公園があったり、東小金井駅の北口も魅力あるまちですし、これからまた若いファミリー世帯を中心に入居者が増えただけのこととはとてもうれしいです。

今、緑中の南側でもかなり大規模な。

○市民G

そうですね。

○西岡市長

分譲住宅が誕生いたします。そうしますと、あそこは緑小緑中ですね。ということでございまして、学区域の見直しということによって、今、その増加ということについては対応していくということです。そして、昔と違いまして、今は私たちの子どものころの時代より、特別教室として、例えば少人数クラスや相談室やランチルームや特別支援教育という形での配慮が必要なお子様のための、よりきめ細かな対応ができるお部屋ですとか、私たちが子どものころと今の時代とは教室の必要性が違うんです。普通教室がすごく少なく、少なくというか特別教室が多くなっている。そして、私たちの子どものころは確か1クラス40人から45人いた時代ですが、今30人ですよ。そういうことを考えますと、今の学校の施設の教室がかなりあふれてきているとか足りなくなっているという現状があるので、その辺は教育委員会も念頭に置きながらしっかり対応してまいりたいと思っております。

東八道路についてのご意見はわかりましたので、こちらは自動車試験場付近はちょっと不便だよと、狭いよということについては、ご意見があったということは承ります。

それから、不審者が三小近くで出たようだということでもあります。小金井は時折そういうことがあります。その情報の適正はいろいろあるんですけども、しかしそういう情報が出た場合は、警察からもすぐ連絡が来ますし、小金井市の安全・安心メール。また、該当するエリアの小学校、中学校へ警察からもすぐ連絡が入ったり、初動体制を大事にしているつもりでございます。もちろん不審者がいないまちがいいわけなんですけど、もし発生してしまった場合は速やかに関係者の方々につなぐようにさせていただいております。

安全・安心メールにつきましては、多くの方々に登録していただいて、これいろいろな情報入ってきます。防犯カメラにつきましては、町会の方々からのご申請がありますと、東京都の補助制度などを活用して、防犯カメラを設置してございます。ぜひ梶野町町会としても、地域安全課のほうでご相談に乗りますので、特に場所の指定とか相談乗りますので、今かなり増えています。先般の第2回定例会でも確か東町7カ所合計で防犯カメラを

設置する予定です。今、防犯カメラの設置を考えている商店会もあります。これは防犯カメラがありますと、いざ何かあったときの犯人特定に向けた重要な証拠、映像データになります。また、防犯カメラがあるということによる抑止力ということも考えられます。

ということで、これは町会の皆様方の自主判断を私たちは大切にしているので、町会の方々と検討をしていただいたらよろしいかなと思います。なるべく設置については、都や市の補助制度を使って。その後のランニングコストのこともありますので、そこもよく念頭に入れていただいて、ご検討いただければと。また、防犯カメラを設置している他の町会や自治会の方々からもいろいろご意見を聞いてみるのもよろしいかと。ご紹介しますので、ぜひ地域安全課のほうにお気軽にご相談いただければと思います。

とりあえずは以上です。

○市民G

防犯カメラでは、警察の会議がありますね。あそこでよく説明を聞きまして、補助金のことなどがあっておりますので。確かにランニングコストが問題なんですね。ですから、そういう点をよく考えて、自分たちでやはりやっていかなきゃいけないかなということがありますので、これから考えていきたい。

それから……。いいですか。

○西岡市長

どうぞ、どうぞ。

○市民G

違う話なんですけれども、町会自治会を運営する、維持をしていくというのはなかなか難しい面がありまして、実はこれ読売新聞にも取り上げていたんですが、これは今月の10日前後の新聞で、自治の足元というようなテーマが取り上げておりまして、これはこの辺のものちょっと違いまして、長野県の安曇野のほうのことを1つの例に挙げて取り上げていて、これずっと読んでいきますと、やはり自治会、自治活動、町会活動、町会自治会活動が大変なんだというようなことがありまして、この辺とは全く事情が違いますので、例にはならないのですが、自治会が解散をしていくというのですか。そういうところが増えているということを聞いているのです。今度8月23日に緑センターで会議がございま

すので、またそういうところで話せばいいのかなとも思うんですけども、実際に高齢化、要するに高齢化によって担い手がいなくなっていくというのが1つ大きな問題と。

それから、町会自治会に入っている方で、入ってもどのようなメリットがあるんだろう。そのようなことが依然と出てくる。新聞にもそんなことが載っているんです。どこも共通した問題なのかなと思うんですけども、小金井全体ではどんなような具合になっているのかお聞きしたい。

○西岡市長

寒いですか。少し温度上げましょうか。寒いですか。

○市民G

エアコン入っているんですか。

○西岡市長

冷房入っています。

○市民G

じゃあ。

○西岡市長

町会自治会です。まず町会自治会、子供会、自主防災会、老人クラブなど、もともとございましたいろいろな住民組織がありますが、私はこれはこれからもずっとなくてはならない組織だし、あるべきものだと思いますし、たくさんの方々に加入してほしいと思っています。しかし現状はどんどん減少傾向。加入率も減少傾向で、今何十点何パーセントですとはっきりと申し上げられませんが、4割ぐらいだと思います。

○司会者

4割ちょっと切るぐらいです。

○西岡市長

30パーセント後半ぐらいではないかというのが私たちの見立てです。もちろん町会によって濃淡あります。町会の大きさもありますし、でも4割切っているのが現状です。これはもう言うまでもなく、今ここで大地震が起きてもおかしくないと。震度7、大きな地震が。ちょうど今、小金井公園で今日から2泊3日の復興まちづくりキャンプというのがスタートして、具体的に災害が起きてから今日が3日目、明日が3カ月後、明後日が3年後ということで想定して、朝からずっとみんなでいろいろなことやるんです。とてもいい企画ですが。いざ災害が起きてからのことを考えると、やはりそういう組織というのが機能を発揮すると思いますし、横のつながり、人と人のつながり、あるいは情報。あそこにどういう方がお住まいになっている、ひとり暮らしのあの方がお住まいになっている。足も悪い。そういう昔ながらの地域的つながり、これは大切です。

しかし現実には、マンションや新しいアパートもでき、そうしますとそこはもう町会や自治会に加入しない方々がどんどん増えてきている。そして、片や町会自治会の運営を見てもみると、おっしゃったように同じ方がみんなで順番でローテーションでやっていて、あつという間に順番が回ってきて、そして高齢化していく。負担感が多く、そして加入率が減っていくので財政的な課題も多く。しかし一方、地震、災害、防犯、防災、やるべきことはたくさん増えていて、そして若い方々がなかなか役員受けたがらないという、何とか負のジレンマに、負の連鎖に陥りつつあるという現状を私は介入しなければいけないと思っていて、私も大きな課題だと思っています。

今、市のほうでも、いろいろ工夫しまして、「わたしの便利帳」に町会自治会に入ることの意義とか連絡先とか載せたり、また新たにお住まいになった方々、住民登録したときに、町会自治会のチラシをお渡ししたりとかいろいろな取り組みはしています。しかしなかなか加入者が増えていかないという現状なので、これはもう本当皆さんと一緒に議論しなければいけない。

これ任意団体なんですよ。絶対に入らなきゃいけないというものでもありませんし、法律があるわけではありませんし、市が条例で縛っているものでもないんです。住民発議の任意団体なんです。これが難しいところなんです。私はこの組織は非常に重要だと思います。老人クラブも子供会も。また、町会自治会、老人クラブ、子供会、これはつながりが持てるんです。ほかにもあるかもしれませんが。というふうに思っています。

○市民G

いいです。

○西岡市長

4割切ったということですね。

○市民G

そうですね。ですから、私のところで言いますと、梶野町は大ざっぱですけども、人口1万で5千世帯というふうに私は思っているんです。それで、実際には町会に入ってくださいっている方が、ちょうど25パーセント。1,250、1,300にちょっと欠けるぐらいが町会に入ってくださいっているんですけども、ですから、非常に先ほど課長がおっしゃってございましたけれども、40パーセントというお話であります。非常に加入率が少ない。しかも、何というのでしょうか。たくさん町会費をいただくというんじゃなくて、年間千円です。それ自体も何か払いたくないようなことがありまして、毎年減っていくというのが現実なんですよね。

ですから、なかなか町会や自治会を維持していくのは大変難しいなというのが現実です。今度23日か8日ですか。3日ですかね。8日ですか。

○西岡市長

しかし、今、担っていただいている皆様方のお力はお借りせざるを得ませんので、どうか頑張ってくださいと思いますし、市も一緒になって考えていかなきゃだめだと思います。

ちなみに令和元年5月1日現在の梶野町ですが、全体の人口がおっしゃっているよう10,183名。世帯数が5,012世帯。これが最新の数字でございます。人口1万人、5千世帯。わかりやすいですね。

○市民G

それで、1,250ですかね。25パーセントなんです。

○西岡市長

ほかにどうぞ。

○市民H

この機会なので。敬老会について。

○西岡市長

はい、敬老会。

○市民H

私、ガールスカウトやっております、子どもを連れて、受付というか粗品をお渡しするという活動をもう何十年もやっていたんですけども、ここ二、三年、なくなりまして、その経路がちょっとよくわかっていないんですけども、うわさではシルバーの方のほうやるんで、子どもは要らないというような、そのところはっきりしないので申し訳ないんですけども、市の財政云々という話はずっとあると思うので、シルバーさんはどういう形、ボランティアなのかちょっとわかりませんが、私たちみたいなのは本当にボランティアなので、そういうのを活用するべきではないだろうか。

もう一つ、成人式も、何か私、ずっと受付やっているんですけども、何か市の職員が年々増えているような気がして、ということは休日手当てみたいなのが出ているんだろうなと思うと、私たちみたいなボランティアでそのところもうちょっと経済をできないのかなんていうふうに思っているんですが。

さっき言った敬老会のほうも、今、二、三年なくなっちゃいましたので、やっていないので、今からまたやりますという話になるかどうかはまたわかりませんが、最初何か市のほうで子どもたちにこういう体験をさせたいということで始めたと思うんですが。

○西岡市長

まず敬老会です。敬老会は今、中央大学附属高等学校の大講堂。あそこは1,550席程度あると思いますが、こちらで敬老会をしております。大体参加者は1,300~1,400人台なんです。いつもたくさんの方々がお越しになられます。

そして敬老会は、今も毎年開催しておりますし、これからも開催してまいります。しかし、これだけの高齢化社会を迎えてまいりますと、あの大きな中附でも1回ではもうおさまきれない時代が来てしまうかもしれません。今早い段階から、未来志向で敬老会のあ

り方をこれから考えなければいけない時期に来ていると思います。

その中で、私もいつもボーイスカウト・ガールスカウトの方々には市のいろいろな常時イベントで手伝っていただいています。そして成人式も、私も青年会議所のメンバーだったので、本当に頑張っただいただいているの感謝しています。

敬老会に呼ばれなくなったということなんですね。

○市民H

いや、何か間接的にそういうふうに。

○西岡市長

そうですね。私は、すみません。いつも受付で、子どもたちがおじいちゃんおばあちゃんにいろいろな記念品を配っていて。

○市民H

いや、ここ今年去年……。

○西岡市長

やっていないんですね。

○市民H

そうなんです。やっていないんです。それがどうしてなくなった……。

○西岡市長

断られたということでしょうか。

○市民H

間接的にはそう聞いているんですが。

○西岡市長

そうですね。

○市民H

上のボーイ・ガールの代表の方と市のほうとどういう話し合いになったのかちょっとわからないんですけども、何かシルバー人材の方がいらっしゃるからもう子どもたちはいいよというふうに、誤解があるのならば、ないほうがいいなど。ここでわかるならばいいかなと思ったんで。

○西岡市長

私は今、すみません。本当のところはわからないので、まず現状どうなっているか。ガールスカウトさんが現在参加しなくなった理由はどこにあるのか。そこをよく担当から聞いて、これはお返事をさせていただいたほうがいいのかと思うので、後でお名前とご連絡先を教えてくださいませんか。

○市民H

すみません。

○西岡市長

私の思いとしては、今までどおりガールスカウト・ボーイスカウトの子どもたちに活躍してほしいというのが、私の本心なんで、はい。もういいですよという思いは、私にはないです。ただ、何かあったかと思しますので。

○市民H

何かあるんだろうと思うんですけども。

○西岡市長

そこはちょっとわかりません。

それから、2つ目の成人式です。成人式も同じでございまして、皆様方に、ボーイスカウト・ガールスカウトの方々に手伝っていただいて、新成人の方々も子どもたちからもお祝いしてほしい。成人の方々も喜ぶと思うので。行ったら子どもたちがたくさんいて「成人おめでとうございます」と子どもたちから言われたのが僕たちの時代ですから、すごい

な、うれしいなと率直に思いました。とてもいいことだと思うんです。なので、成人式も行きたいんですが、成人式は私が市長になってから、変わったんです。何が変わったかといいますと、宮地楽器ホールでやっているんです。僕も宮地楽器ホールがいいと思います。しかし、宮地楽器ホールは578席しかなくて、大体成人式対象者って1,200人ぐらいいると思うんですが、毎年700人台来ているんです。ということは、式典会場に入りきれないんです。

親御さんから苦情が届いてたんです。市長になったときに、以前。せつかく朝早く起きて、髪を整えて、着つけをして、朝も3時4時に起きて、お父さんお母さんも準備して、娘が式典に行った。そしたら中に入れなかった。あふれかえっていたと。何事だということと、すごいお父様お母様、保護者の方からすごいクレームが来ているということをして、私は市長になって、そして市長になったのが12月の18日ですから、すぐ1回目の成人式やったんです。自分の目で見ました。確かにこれは改善しなきゃいけない。中に入れられないんです。物理的に入れられないんですよ。

方法は2つしかありません。場所を変えるか、中附に行くか。小金井なら。あるいはどこかの大学を借りるか。場所を変えて1回でできるか。場所がいいので、宮地楽器ホールで2回やるか。そのどちらかなんです。いろいろな議論した結果が、やっぱり立地条件がいいと。成人式の日、雨や雪が降りますと、振袖も着ています。とても高額なものですよね。やはりどうしても車で来るんです。見送りに。そうしますと、その大学や高校の周辺で多分パニックになります。必ずご迷惑をかけます。あの時期って雪が多いんですよ。結構歴史的にね。なので、やはり宮地楽器ホールの立地のよさをいかそうと。であるならば、午前と午後に分けるしかない。そして、エリアは小金井。踏切がなくなりましたが、線路から北側は午前。線路から南は午後で初めてやってみました。全くクレームがありませんでした。1件もクレームなく、そして全員が式典会場に入れました。

ただ大変なのは、演壇に立つ人が同じことを2回言わなければいけないという困難さがありました。違うこと言えないので非常に難しかったんですけども、なので2回になったということが、もしかしたらこれまで。

## ○市民H

形式的にはそうなって……。

○西岡市長

2回になったので、今までお手伝いしていた方々が、ちょっと事情が変わって、物理的にとか体制の面とか人員の面とかで、もしかしたら課題があつて、これまでの参加と変わってしまったのかもしれませんが、その点も聞いてみたいと思います。ただ、背景としては成人式についてはそうになりました。

ただ、さらにこれから悩ましいのが18歳になるんです。新成人が。

○市民H

そうですね。

○西岡市長

18歳、19歳、20歳の子たちが、一斉に新成人になるのが2022年。18歳成人、法改正。たしか2022年だったと思います。成人が18歳になりますよね。そうするとその年は3年分お祝いしなければいけないんです。それを今から考えるんです。どうしようということですよ。

もう一つの課題は、18歳が成人になるわけです。そうすると、18歳って高校3年生とかで受験じゃないですか。1月って。大学受験の前ですよ。じゃ、その時期に成人式できますか。本当に何人来ますかっていう課題があるんですよ。ですから、今までどおり法律上は18歳が成人だけど、お祝い会を20歳でやろうという選択肢ももしかしたらあるかもしれないし、やっぱり18歳でやろうと。だけれども、1月では受験もあるし、ほとんど集まらないので、じゃ5月とか、冬とか、季節を変えてやりましょうという議論もあるわけです。

○市民H

うちの息子が言っていました。あのときは1月15日とか。その日じゃなくて、その前の日がいいと。聞き流して結構なんですけれども、その日にやると、結構地方に行った子たちもいるので、学校とかいろいろ。帰ってきて、成人式に出て、もうその日に帰らなきゃいけない。それはつらいです。せっかくだったら前の日に成人式のお祝いをして帰りたいと。そのようなことを言っていました。

○西岡市長

はい。

じゃ、最後お一人。どうぞ。すみません。時間によってはお二人いけますけれども。

○市民J

〇〇です。ICT化。学校が、機器を導入するということで、予算が組まれたということで、ここにも載っているんですけども、3人に1人が1台を所有することになるということなんですけど、ビルゲイツも16歳まで自分の子どもたちには使わせなかったという事実がある中で、もうこれは国の方針だからしょうがないと思うんですけども、100歩譲って、本当に最低限の単位にしてほしい、時間数にしてほしいということと、やっぱりにおいによる害、香害とかで子どもたちの体も崩れてきている現状がある中で、こういった電磁波、無線LANになっちゃうと、電磁波が各教室で飛び交うような日常を過ごすようになってしまうと思うんです。せめて有線にさせていただいたり、パソコンの部屋をつくっていただくようにさせていただいたり、子どもたちの体に見えないうちにとっても悪いことが積み重なっていく。それが小学校1年生から始まるというのはちょっと心配だなと思っています。そのことについて、市長はどうお考えでしょうか。

○西岡市長

Wi-Fiと健康への因果関係というのは非常に専門的な領域だと思うので、私は、私も毎日携帯電話を胸に入れてますし、スーツに入れてます。でも、皆さんも持ち歩いてますよね。基本的にはかばんにあっても、あまり変わらないと思うんですけど、このWi-Fiの電波と健康への因果関係というのが、専門的に何か確証されたものが今、私の中にないので、何ともこのことについては答弁しづらいです。お答えしづらいです。どういう悪影響があるのか、医学的、科学的にどんな証明がされているのかとかかわからないですが、しかし今、小学校の子どもたちに、いわゆるプログラミング教育を通じた論理的思考の開発とか、それから将来のものづくり、技術、科学技術の領域を担う人材を教育するための基礎的な学習とかっていうのは、これはある段階からは私は絶対必要なことだと思っているので、僕も自分自身を振り返ってみれば、やっぱりコンピューターとか、あるいはコンピューターを通じたコンピューター言語及びプログラム発想によるそういう知識というのは、あればよかったなということでございますので、すみません。やはり、16時に終わらないと会

場の関係でだめだったので、すみません、終了になりますが、もうちょっと専門的知見を高めていきたいと思います。

教育委員会の中でもいろいろな検討がなされてはいると思いますけれども、ご意見として承ります。

ただ一方で、JRも含めて、ラインモールも含めて、プログラミングの教室をつくっていますが、一方ですごく人気があるということも聞いています。申し込みが多くて、とても全部受け入れきれないぐらいとても保護者の方々に子どもたちにそういう学習を通じたいろいろなことを研究してほしいというふうに願っているお母さん、保護者の方も大勢いるとは聞いています。

#### ○市民J

何かそれを義務教育の学校でやる必要があるのかなって。好きな子、得意な子がそこを伸ばしていくようなふうになっていったらいいなと思っています。もっともっと大事なことが小学校時代は体験してほしいと思っています。

#### ○西岡市長

よくわかります。プログラミングだけではなくて、今までやってきた大切なことは、これは絶対、残さなければいけません。土にふれたり、体力つけたり、相手の気持ちを思いやったり、今まで守ってきたことは絶対重要ですが、新たに新学習指導要領の中に組み込まれたアクティブラーニング、プログラミング教育や話せる英語力をつけるなど、あるいはがん教育などです。これからの時代の中で新たに付け加えていく視点というのも大事だと思います。

#### ○司会者

それでは、お時間となりましたので、この辺で終了させていただきたいと思います。

最後に市長より一言申し上げて終了させていただきます。

#### ○西岡市長

時間が過ぎておりますので、もう短く。本当に今日、私の任期最後の市民と市長の座談会でした。13回にわたって開催してまいりましたが、本当にこの13回

の間には、さまざまなご意見をいただいてまいりました。最後の市民と市長の座談会ということで、私自身の記憶にも残る座談会となりましたことを心から御礼と感謝を申し上げます。どうぞこれからも頑張ってまいりますので、よろしく願いいたします。このたびはまことにありがとうございました。

○司会者

それでは、以上をもちまして、令和元年度、第4回市民と市長の座談会を終了させていただきます。ありがとうございました。

アンケートにつきましては、退室の際、回収いたしますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。